

#### ◇指導には二つの配慮を

生徒指導で生徒や保護者から不信感をもたれることがあります。不信感をもたれる理由は、二つあるように思います。一つは人権に対する配慮を欠くことです。大人に対してならとても言えないことを、腹を立てて言うてしまうことです。言うてしまうと、「馴も舌に及ばず(颯立の馬車にかけもかけない)」ということになってしまいます。この点は十分に注意しなくてはならないことです。

もう一つは、不公平(差別)と考えられてしまうことです。叱る場合には、全員を同じように叱るのが指導と受け止めていることがあるようです。指導というのは、その人にとって最も有効な方法をとることで、皆同じということではありません。それは差別ではないことを理解させておく努力が必要です。私は、他の生徒と同じように指導すると、自分から離れていくと思えた生徒には、そうならないよう別の方法をとりました。もちろん、差別という声があがらないような準備はしてありましたが。

叱るという指導では、全員ならともかく、個人の場合には、みんなの前を避けるようにしていくことが望ましいでしょう。

#### ◇悩みや不安があつてはいけないのか

研究会や会議などで、生徒の悩みや不安の把握と解消という言葉が出てくる度に違和感を感じてきました。悩みや不安は悪、周囲の大人達が解消してやるべきことと認識しているように感じたからです。悩みや不安のない人はいないし、そのままにしておいてもかまわないと考えているわけでもありませんが、克服するのは本人です。周囲の人に相談したり、本を読んだりして解消法を見つけることが大切でしょう。周囲の人達は、手助けしかできません。

悩みや不安を克服しながら人間は成長していくもので、発達刺激とも考えています。上手に克服し、たくましくなつてほしいものです。それが生きる力というものでしょう。

#### ◇国民の負託に応えるために

保護者や地域から学校に届く教師への苦言などの中には、同感に思うこともある。先生方もあるのではないかと思います。そのままにしていれば、やがてその教師だけでなく、学校全体としての信頼も失うことになる。このような時には改められるよう助言してやるのが同僚のあり方として大切です。

教師の口から、「言いにくいことでも、親友のためを思うなら、言うてやるのが親友だし、親切というものだ」との言葉が発せられることは多い。私も何度か言った覚えがあります。しかし、生徒にはそう言いながら、同僚には言えないようではいけないと思います。一時的にはいやな思いもするかもしれませんが、冷静に受け止めて改善していくような教師でなければ、この職を全うすることはできません。

民間会社なら、絶対にそのままにしないとのこと。なぜなら会社がなくなってしまうからです。国民の負託に応えるとの強い意志をもって、言うべきことは言い、伝えるべきことは伝えなければなりません。「教えるのは好きだが、教わるのは嫌い」のようだと受け止められるような教師になつてはならないのです。

◇3学期始業式(1月11日<意見をしっかり述べられる人間に>)

皆さんは、学級などで積極的に意見を述べるよう心がけていますか。国民性なのかもしれませんが、日本人は意見を述べる人が少ないようです。

私は発言の機会があれば必ず発言するようにしています。この世の中を変えたいと思っているからです。以前は発言の前に、自分が話そうとしていることは自分のためなのか、みんなのためなのかを自問していました。そして、自分のためではないと思えば迷いませんでした。何年も続けていると、今ではどんなに大勢の前でも平気になりました。

数年前のことですが、硫黄島から生還した人の話を聞きました。硫黄島での日本軍とアメリカ軍の戦いは、とても悲惨なものだったそうです。二度とあのような戦争を起こさないでほしい、と涙ながらに体験を語ってくれました。あのような戦争への道に突き進んだ経過を研究した人がいるそうです。その方は、「言うべきことを、言うべき立場にいた人が言わなかったからだ」と言っているのだそうです。こんなことでは国が滅ぶ、と言うべき立場の人が言っていたなら、戦争にならなかったのではないかと思います。

どこの世界でも、気づいている人、見えている人はいるもので、そういう人たちが発言し、その声が多くの人に届くようであればならないと思います。

皆さんには、自分の意見をしっかり言える人間、勇気をもって、発言する時に発言できる人間になってほしいと思います。

※戦争への道を歩まぬためには、戦争の悲惨さを教えることよりも、意見をしっかり述べられる人間を育てることの方がはるかに重要と考えています。

◇不必要な物の要求には

子どもが品物の購入をねだる時、昔も今も変わらず出てくる言葉は「みんなが持っている」でしょうか。そして、その言葉に負けてしまう方も少なくないようです。確かにみんなが持っていることもあるでしょう。しかし、持っている人の名を挙げさせれば、ほとんどは数名といったところが多いのではないかと思います。

必要な物なら、特にねだられなくても保護者は買い与えるでしょう。不必要な物を要求され、どうしたものかと考えあぐねている時に、機先を制するがごとく、「みんなが持っている」との言葉が発せられとぐらついてしまうのかもしれませんが。買わない理由を説明し納得させられれば苦勞はないのですが、子どもがだだをこね、簡単に引き下がらないことも多いでしょう。こんな時に、他の家の子全員が持っていたとしても、「不必要な物のために金は出さない。これは、我が家の方針だ!」と毅然とした態度がとれるようでありたいものです。

◇意図するところに向うには

水の入ったお椀を浮かべ、中の水をかき混ぜても進む方向は定まらない。お椀の外の水を動かさなければなりません。教育界は、お椀の中の水をかき混ぜることばかりしているように感じています。自分たちのできることはしっかりやり、できないことはできる人にやってもらう働きかけが肝要です。文部科学省に出向いて(平成19年10月)私見を述べたのはそのためでした。子どもを取り巻く不健全な環境をそのままにし、いかに適応するか、乗り越えるかを指導するような対応では、子どもの健全育成は図れないでしょう。